

# 産声に戻った！ 道立江差病院で 待望のお産が再開



檜山医師会  
北海道立江差病院

早川 修

札幌医大卒業後、20年間は大学でスタッフとして臨床・研究と後輩・医学生・看護学生の教育に情熱を燃やし、次に自分の産婦人科臨床・技術の研鑽と可愛い後輩たちのために優れた教育関連病院を新たに築き上げたい一心で帯広協会病院に赴任しました。自分の知力と情熱を燃やし尽くした15年間でしたが、寄る年波には勝てず、老眼、気力・体力の衰えが進み、このまま教育関連病院のトップで指導を続けることは無理と判断しました [burnout]。

では、次に何をするのか？ 何をしたいのか？ 自分の専門で好きな癌の長時間に及ぶ手術は老眼で不可能になり、癌の次に好きなものは分娩でした。また、田舎出身(秩父別町)で都会暮らしは性に合わず、どこか分娩を扱う地方の病院なら、まだ現役の産婦人科医として役に立ち働けるかもしれないと考えていました。

道立江差病院には昭和63年から1年間勤務したことがあり、当時は産婦人科医1名体制でしたが、分娩・手術をこなしていました。平成16年に福島県立大野病院で医療事故が起こり、産婦人科医が1名しかいない地方の病院で分娩を取り扱うことが全国的に中止・敬遠されました。江差病院も分娩の取り扱いが中止され、北海道で唯一、檜山支庁だけが分娩を扱う施設がない地域になっていました。

分娩再開を希望する声は高まるが産婦人科医師数は減少して復活のめどが立たない状態が長く続き、ついに道知事が強硬手段に出て、平成25年度中に江差病院で分娩を再開させると公約！！ 教授が直接何度も呼び出され・お願いされて、分娩再開が決定されました。教授は分娩対象者を経産婦でリスクのない妊婦に限り、当初大学から1週間交替で医師を派遣して分娩に対応させようと考えておられました。江差に固定医として行く希望を持った医師が、医局には誰もいないからです。

このころ、私の耳にもこの情報が届きました。1週間交替ではある一定の頻度で起こる異常事態に1人で対応できる実力がまだ身に付いていない若い医師では、医療事故を起こし医療訴訟になって、せっかく分娩を再開したのにまた分娩の取り扱いを中止せざるを得なくなる可能性があります。それで、帯広では役立たずになりつつある私が道立江差病院に異動することを教授に嘆願しました。分娩を再開する

江差にはベテランの産科医が適任です。今後団塊世代の医師が引退するため、少子化の進展で出産数自体は減少していますが、それを上回るペースで産科医が減少しています。産婦人科医は不足しており、地方勤務を希望する医師は子どもの教育があり皆無。限られた医師(老医師)の有効活用として、地方への誘致、助産師の活用、いずれは分娩施設の集約化が必要になります。

このような経緯で、「北海道の里 追分流れるロマンの町」江差の五月は江戸にもない」江差に4月に赴任しました。早速、4月2日に第1例のお産があり、分娩はまだ5件(4～10月)ですが、里帰り分娩の希望者も出てきました。スタッフ育成のために新生児蘇生法講習会「専門」コースを助産師対象に江差で2回開催しました。次は看護師・救命士のための「一次」コースを開催するために準備中ですが、予算がないのが厳しいところです。

江差に赴任して初めて知った・見落としていた、地方病院が抱える致命的な問題が出現しました。看護師不足(29名欠員)により夜勤体制が維持できず、10月から病床を38床減少する危機の状態に陥り、産科は陣痛室の2床のみに縮小。常勤助産師は3名のみで、看護師業務兼務のため分娩当番自体が負担になっているなど、分娩数が増えることが歓迎されない状態にあります。人口が高齢化している地方では懸命に看護師を募集しても集まるはずがなく、期待は地元出身の看護師を養成することで、奨学金が一番手っ取り早い方法ですが、道立病院のためそれがなく、江差町にお願いして奨学金制度がスタートしたばかりで、3年後にならないと効果は出ません。地道な努力を続けるしか方法はありませんが…。

還暦を迎えるに当たり、健康寿命(日常的に介護を必要としないで自立した生活ができる生存期間は、平成25年は男性71.19歳)を意識するようになり、いつまで働くべきかを考えています。江差に来てから趣味で念願だった温泉ソムリエと温泉検定の合格証を取得し、温泉分析書を深読みできる知識と経験を研鑽中です。北海道の源泉かけ流し温泉を中心に、入湯・温泉分析書を収集したのが約500湯になりました。来年は道外(東北)へ進出する予定です。

温泉はどこが良いか聞かれますが、ラーメンと同じで好みが極端に分かれます。帯広市の温泉銭湯・アサヒ湯(モール泉)、川湯温泉・川湯公衆浴場(酸性泉)、南茅部保養センター(硫黄泉)を候補に挙げておきます。プールのように塩素臭が強く酸化が進んだ温泉は皮膚を老化させる原因になるので、入浴は避けましょう。